

7. 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡

所在地：福井市安波賀中島町字赤旗

調査原因：調査整備事業（第135次調査）

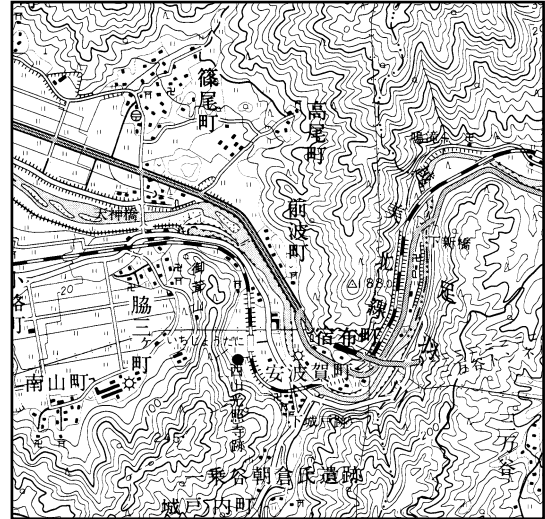
調査期間：平成23年5月21日～

平成24年3月23日

調査主体：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

調査面積：約800㎡

時代：室町時代（戦国）



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡では史跡整備を目的とする発掘調査を毎年行っており、平成22・23年度は西山光照寺跡の北半部、約2,300㎡の調査を行いました。西山光照寺は現在、福井市花月にある「福井大仏」の呼び名で知られる天台宗寺院で、慶長11年（1606）に移転する前は当地にありました。朝倉（初代）孝景の叔父の鳥羽豊後守将景の菩提を弔うために再建された天台宗真盛派の寺院で、真誠上人の高弟の盛瞬上人（～1516年）が初代住職になるとされます。調査地は西側が山の上・下2段の平坦面からなり、上段の平坦面は南北約70m、東西約14～35mの、北になるほど幅狭い地形をしています。平成23年度は、昨年度調査区の北側を調査しました。

遺構 主な遺構として建物1棟〈建物4〉、井戸1基〈井戸2〉、石組溝1条〈溝10〉、土坑2基、火炉埋設遺構と、上・下段境に築かれた石垣を検出しました。建物4は石垣に平行に南北約10.8mの長さに礎石の並びを検出したものですが、礎石の残りが悪いので建物全体の形状は不明です。この建物4の下の地面で、長軸1.5m、短軸1.0m、深さ0.6mの土坑を検出し、土坑の北西底面からは鉄釉茶入2点、筒型陶器（水指）1点、越前焼播鉢1点、鉄鍋1点、漆器皿1点が一か所にまとまる形で出土しました。昨年度からの続きで検出した上・下段境の石垣は、比高差約2.3mあるうち、下段面から約1～1.5mの高さを検出しました。石垣の上段北東端では「南無阿弥陀仏」の名号の彫られた石碑が石垣に埋め込まれる形で検出され、宇野三郎五郎、名乗を（実名）職近、戒名を真玄という人物が永禄3年（1560）に建てたことが線刻されていました。また、石碑を境に上段北側の石垣ではかなり大きな石が使われており、幅1.3～2.0m、高0.8～1.0mなどの石が2段に積まれていました。

遺物 越前焼、土師質皿、信楽焼の壺、中国製の褐釉壺、石製の鉢・風呂、一石五輪塔などが出土し、上段の南側（昨年度調査区）と比べてかなり遺物の出土量が少ないことから、上段の北側は日常生活の場からやや遠くなると思われます。特に珍しい遺物は、「拾両」と線刻された銅製の繭形分銅1点で、下段の石垣斜面の崩落層から出土しました。この分銅は欠損がない完形品で、重さは369gを測ります。類似資料に大坂城跡や堺環濠都市遺跡出土資料があり、今のところ、おそらく江戸時代の初め頃に製作されたものと考えられます。

（櫛部正典）



土坑内北西底面にて、
鉄釉茶入・筒型陶器(水指)・鉄鍋・播鉢の出土した状況



「拾両」と刻まれた繭形分銅
外殻は薄い青銅製で作られ、その中に溶かした鉛を流し入れて製作されている。

